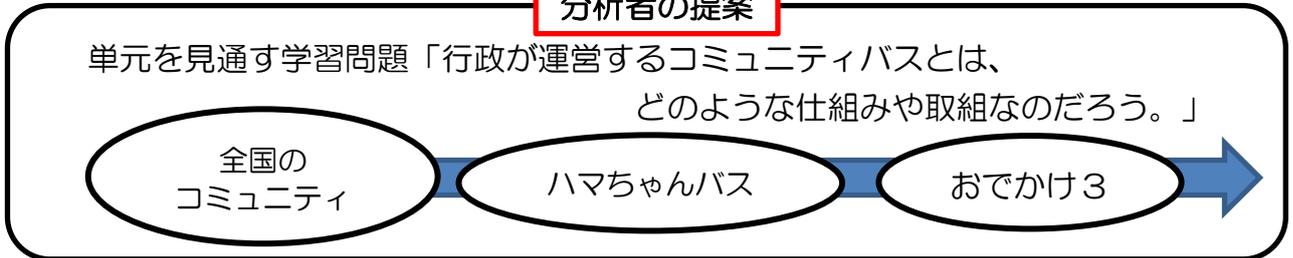


横浜市小学校社会科研究会 <b>6 学年部会</b> <b>研修会記録</b>	令和元年 7月23日 横浜市小学校教育研究会 会長 榮 秀之 横浜市小学校社会科研究会 会長 新井 篤志 同 学年部長 杉本 敬之
-----------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------

【提案日時】 7月 3日 (水)	提案 廣瀬 貴樹 先生 (大門 小)
【会 場】 横浜市立丸山台小学校	司会 杉本 敬之 先生 (茅ヶ崎小)
	記録 板山 涼 先生 (星川 小)

6月の授業研を受けての分析提案です。今年度の研究の方針についての提案となりました。

- 視点①
- ㊦ 「追究する対象が明確になり、主体的に追究したくなるような単元を見通す問題の設立」



- 検討
- ・行政とのかかわり方はとても難しい。
  - ・「行政」という言葉を前単元からふれられるようにしておくと考えやすいかも。
  - ・身近な材なので、「おでかけ3」を単元の最初にもっていく流れでもよい。
  - ・行政の「コミュニティバス」と地域の「おでかけ3」をどのようにつながりをもたせるのか。今後、「おでかけ3」が行政とのかかわりができると面白い。

視点②「実感を深めるための調査・体験活動」

「ねらいを明確にした資料提示」

○成果

- ・実感を深めるための調査・体験活動が、社会的事象の意味に迫るための手だてとして有効であった。
- ・ねらいを明確にした資料提示により、子どもたちがより具体的に思考できた。
- ・概念的な知識を獲得しようとしている姿がたくさん見られた。

今までの学習すべてが  
考えの根拠となっている。

○検討

- ・友達同士の意見交換、考えの交流から概念的知識の獲得につながっていている姿が見られた。
- ・本時の問題に向かうプロセスも大事。
- ・学習問題の主語をはっきりとさせたほうがよかった。
- ・発言する根拠（体験・経験・調査・資料）をしっかりとさせて話し合う。  
それがあるからこそ、概念的知識を獲得しようとする姿が見られたのではないか。
- ・「概念的知識」という言葉が独り歩きしないよう、よく考えていく必要がある。

<副会長 梅田先生より>

- ・「概念的知識を獲得しようとしている姿」とは何かをもっと考えていかなければいけないと感じた。
- ・自ら問いをもととする姿も、その姿なのでは。
- ・子どもは概念的知識を獲得しようとはしていない。  
結果的に獲得している。
- ・今後も研究が必要ではあるが、今回の研修会で方向性が見えてきたのではないだろうか。

文責 板山 涼 (星川小学校)

送付 関口 暁之 (永谷小学校)